令和７年度春の展覧会　参観者の感想より

皆さんの色彩豊かな作品と明るい気持ちで向き合えたような気がします。「さくひんしょうかい」として、自分の作品を文章で伝える点が非常に良かったです。色彩だけでは伝えきれなかった想いを知ると、子ども達一人ひとりが全身全霊で、今その瞬間と向き合っていることが感じられました。息子は学年が上がり、現象を捉えて、形を表現する力が身についている一方で、自分が考えた通りのインパクトのある作品に仕上げようとするものの、満足いくものに仕上げきれなかったという、苦悩が見てとれました。息子も立場や環境が変わって、人として、少しずつ変化、成長をしようとしているのだと思うと、親として何を伝えられるのか、何が出来るのかと色々と考える時間になりました。附属小というこの環境で育まれていく感性を大切にし、今年度も全力で駆け抜けられるようサポートしていきたいと気持ちを新たに出来ました。こうした機会に恵まれたことに、感謝いたします。

→　児童の作品は、その子自身の「今」を表しています。昨日でも、明日でもなく、１年後にもかけないものなのです。その時の気持ち、思いを表します。勿論、よいことだけが画用紙に表される訳ではないでしょう。だからこそ、作品からその子自身を感じ取り、わかっていただきたいと思います。「さくひんしょうかい」についても、児童の作品を読み解くためのヒントになりますので、よくお読みいただけるとさらに展覧会を楽しく見ることができると思います。

まず作品を先入観なく観たあとに、作品紹介を読む形で鑑賞しました。作品からも紹介文からも、子供たちの作品に対する想いが伝わりまさに「作品はその子自身」だと感じました。子供からも、自身の作品はもちろん、お友達の作品の解説もしてくれて、お友達の作品からも学んでいることを感じとりました

→　絵をかくことは、すなわち「自己表現」なのです。だからこそ、やはり「作品は自分自身」なのだと思います。だからこそ、作品の技能的な面だけに着目するのではなく、何をかこうとしたのか？なぜ、かいたのか？どんな顔をしながらかいたのだろうか？…そんな観点で鑑賞していただきたいです。まさか、「〇〇の絵、友達と比べて下手だったよ」なんて、お子さんにお声掛けしていないですよね？また、友達の絵を見ることは、友達自身を知ることでもあります。子供たちは自他の作品を鑑賞することで、多くの学びを得ています。

息子と一緒に鑑賞することは出来なかったのですが、事前に「〇〇君の絵がすごく上手だよ。」「〇〇さんは見たことない描き方をしているよ。最初に画用紙全体を黒く塗りつぶすんだよ。」などと、たくさん見どころ教えてくれました。実際に作品を見ると息子が感じたことがよく分かり、お友達の作品をしっかりと見ていたことに少し驚きました。また「先生がアドバイスしてくれた」と嬉しそうに言っていた箇所も自然に描かれていて、一生懸命取り組んだのだなと思いました。ありがとうございました。

→　児童は授業の中で展覧会の作品を鑑賞します。「よいところ見付けカード」に友達の作品のよいところを書き、伝える活動を行っています。そのためには、友達の作品をよく見る必要があります。時には、作者自身で気が付かなかった作品のよいところを見付けることもあります。自分では気が付かない自分のよいところを友達が見付けてくれたり、自分でよいと思ったところを友達に認められたりして、表現する楽しさを感じるだけではなく、自分を肯定的に捉えるのだと思います。

どのお子さんの作品も、その子らしさ、その子自身の想いが伝わってきて、全体的として、個を大切にする多様性を持ちながらも、附属らしい伸びやかさ、明るさ、爽やかさなどが共通しているといった印象を受けました。また、低学年の心を映し出すような自由な絵から、6年生に近づくにつれて写実的な絵が増えてくるのも子供達の思考の移り変わりや、現実と向き合っていく力を得ていく姿を見るように感じて、子のそれぞれの年齢によって親としてどのように導いたり、サポートしたりしていけば子供により良い影響を与えることができるだろうか…などと私自身、日々考えて行くことの必要性を感じることができました。親として、子の持つオリジナルな良さを大切に思いながらも、その一方でお友達の作品の良さにも沢山気づく機会を与えていただけたことで、「次回の子供自身の作品にもより良く活かしていこうね」と、親子で、そのような会話をすることができました。

→ この感想を1ついただけただけでも、今回の展覧会は実施した意味や価値があったと言えます。「作品」を通して、お子さんを見る・考えることがとても大切だと思いました。勿論、気軽に展覧会に足を運んでいただき、作品から児童の頑張る姿を想像して自然と頬が緩んでしまうことも展覧会の意味や価値だと思います。展覧会自体に、人それぞれの意味や価値があってよいのだと思いました。

娘の絵も、同じ場所で描いたお友達の絵と見比べてみると、影響を与え合っている部分と、自分のオリジナリティを出そうとしている部分があり、今の彼女をとても表している気がしました。
仲良くさせていただいている子とは、感性が合うから仲がいいのでしょうか。仲良くしているから感性が似てくるのでしょうか。

→ 本校図画工作部は、昨年度から児童の「感性」を磨く研究を行っています。我々の言う「感性」とは、所謂天性のセンスと言われるものではなく、育成可能なものだとしています。児童のやってみたい、ドキドキ、わくわくと主体性を発揮することも感性を磨く一因として考えています。そこで我々は図画工作科の授業を通して、児童の感性を磨いているところです。さて、私が思うに、まずは感性が合うから仲が良くなるのだと思います。しかし、様々な人と出会う中で、異なる感性をもつ人に対しても人間は強く引かれ影響を受けることも往々にしてありますよね？似ている感性も様々な経験を経ることで、いずれ唯一無二のものになります。そしてすぐには完成するものではありません。No.1になることも、Only Oneになることも人生においては難しいのです。

画家の松丸さんが気さくに話しかけてくださり、絵を描くことが苦手な我が子の絵まで見てくださいました。「昔は作品に金・銀・銅と付けられていたが、私は銅を取ったことあったかな？くらい。金・銀は取ったことない。でも描き続けた。継続して描き続けると、いつか何かのタイミングで描くことが好きになったり、描けるようになったりするから、子どもが絵を描くのが苦手だとか言っても気にしなくていい』とアドバイスをしてくださいました。夫と聞いてなるほど～と…。
展覧会に足を運んだら、思わぬ貴重な経験をさせて頂きました。ありがとうございました。

→ なかなか時代を感じる展覧会の方法ですが（笑）、本校卒業生で画家でもいらっしゃいます松丸さんから貴重なお話をいただけたようですね。「続けるともしかしたら、何かのきっかけで好きになるかもしれない」とは図画工作だけではなく、全てのことに言えるかもしれません。学校の教育がそのきっかけになるとよいなと思いました。これからも児童に対して、様々なことに見たり、触れたりして学ぶ機会を与えたいです。

学年ごとにテーマに沿って描かれており、全体で見るとクラスカラーが、個人で見ると個性があり、大変面白かったです。水だから青と言うわけではなく、色々な色を使って描かれており、光の当たり方等感じられとても素晴らしかったです。

→ 仰るように、クラス単位だと統一感を感じる時もありますね。しかし、よく見てみると作品一つ一つに同じようなものはなく、表現の奥深さも感じます。このように色々な見方・考え方で鑑賞していただけると「展覧会」を開催している意味があります。

物体を線で捉えてしまういわゆる「マンガ」的な描き方や、先入観で色を選択している作品が多い中、点描画のような手法や、光としての色を捉えようとしている作品も見受けられ、見応えがありました。玄関や校長室に並んでいる作品だけでもいろんな技法が鑑賞できるので、型にとらわれずいろんな表現方法を試してほしいです。高田誠さんの色を点に置き換えていく手法(さいたま市役所の壁画など)は、ゲームのドット絵に馴染みのある子たちには何かインスピレーションを与えるのではないかと思います。

→ 「なるほどな」とこの感想をいただき感じました。様々な表現に触れ、実際に試行錯誤をして、自分なりの表現をしたり、発見したりします。私たちが授業を行う上でも大変参考になる御感想だと思いました。

今回の展覧会には、祖母が参加させていただきました。子どもが会場を案内、作品を説明してくれたと嬉しそうに話していました。子どもも誇らしげにしており、親としても嬉しく感じました。

→ 「展覧会」や「作品」をきっかけとして、子供自身が多くの人々やものと関わることができるとよいと考えています。校内音楽会では感動のあまり涙を流す保護者も多く見受けられ、美術展覧会担当としては、羨望且つ悔しさすら感じる時もあるのですが（笑）、美術展のよさとは何か考えたときに、先述のようなよさがあるという考えに至りました。この児童も、大好きなおばあちゃんに学校で頑張っている姿を見て欲しかったのでしょう。その気持ちは、きっと伝わってるぞ。

当たり前に目に映った風景を描くのも、水彩絵の具を使うのも簡単なことでは無いことは経験済みの大人からみて、子供達の不器用なところや、大好きな虹や花を描いたりするのも、キラキラの絵の具を使ったり工夫するのも、それぞれの性格や個性が表現されていて、みんな違ってみんなイイなと思いました。

→ 野外造形会へ臨む上で、各学年の題材のテーマは設定しているものの、それを児童自身が解釈して、目の前の風景を見て、自分の「今」の気持ちも画用紙に表現することが野外造形会の大きなねらいです。仰る通り、みんな違ってよいし、それ自体が尊い「よさ」なのだと思います。

“正確”や“こうあるべき”が求められがちな世の中で、見たもの・感じたものを一人ひとりのフィルターを通してのびのびと表現しているところに感銘をうけました。
子どもたちには、これからも自分なりの視点や考えを大事にして堂々と表現してほしい。いち保護者や大人としては、それを伸ばせるようにサポートしたいと切に感じました。

→ このような御感想については、図画工作の学びの意味や価値を改めて問うているような気がします。先行きの不透明な時代になり、ますます一人一人の「人」としての力とは何か、豊かな人生とは何か等、よく考えなければならない時代にもなりました。小学生でいる今この時期にどのような経験をするか非常に重要です。私たちは「図画工作の学習」の観点からそのようなことを考え、日々子供たちと実践を重ねていきます。

野外造形会の帰宅後に、息子から滝をこうやって描いて滝らしさを出した、と解説されていたので実物を観たときによくわかりました。絵に奥行きが出てきて技術面の成長を感じました。先生方は早めに準備をして受付の負担も増えて大変だったと思いますが、写真も撮れたのでとてもありがたかったです。
会場の雰囲気としては、3日開催のためか観覧者が分散しており落ち着いて観ることができました。会場が静かだったので音楽がよく聞こえて何の曲かなと気になりました。どこかにセットリスト貼ってありましたか？選曲理由やどの先生の選曲か書いてあったら、また別の楽しみ方ができそうです。(安藤先生の選曲な気がしました)映像が流れていたのも良かったです。当日の様子が感じられました。
埼大生の作品も展示されていてとても上手で感心しました。先生方の作品も観てみたいので、冬の展覧会ではぜひ何か展示してください！

→ まずこんなにも長文で御感想いただき大変恐縮です。ポイントが多すぎて、さすが附属小の保護者だなと思いました。今回、多くの方々に作品を見ていただきたいと思ったので、保護者限定の日程を設けました。また、その際は写真撮影も可にしました。この取組に関しては、かなり多くの肯定的な意見をいただきました（というより肯定的な意見しかありませんでした）。今後も他の学校行事と調整しながら、可能な限り日程を設定したいと思います。そして、BGM についても多くの肯定的な意見をいただき、選者（正解です☆）としては感無量でございます。児童の作品を引き立たせるために、展覧会のコンセプトとマッチングするように…といくつかの観点から選曲し、音量を含め展覧会をプロデュースしています（決してただ選者の趣味というだけではないのです）。言うならば、展覧会全体が教員の作品とも言い換えられるのかなと思います。・・・そのようにお伝えして、我々の作品展示は勘弁していただこうかしら。

今回の冬の展覧会の感想もいただければ嬉しく思います。
以下の QR コード、URL からよろしくお願いいたします。

URL
https://forms.office.com/r/QjJSLaAYHe